

02

サステナギア最前線  
壊れた器を美しく修復する  
「金継ぎ」を自宅で体験

03

進化するConSiteワールド  
Solution Linkage 通信  
ConSite Shot編  
北海道産業株式会社【北海道苫小牧市】

10

12

拝啓・現場小町  
チーフス工務【千】sen  
柴田千代さん

14

TIERRA+ JOURNAL  
イベントレポート / 日立建機からのお知らせ

16

日本のすごいインフラ  
ふ頭の新インフラが伝える先進的工法  
横浜港 ハンマーヘッドクレーン

### サステナギア最前線

04

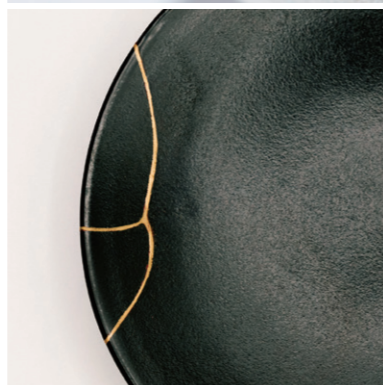
気候変動対策やSDGsへの取り組みは、避けては通れない時代になりました。  
ぜひ取り入れたい、サステナブルで身近なギアをご紹介します。

文／編集部

「金継ぎ」を自宅で体験  
壊れた器を美しく修復する



「金継ぎコフレ」16,500円(税込)  
セット内容：説明書、金継用上生漆、  
絵漆、テレピン油、プラスチックペラ、  
マスキングテープ、砥之粉、胴擦粉、  
磨き粉、耐水ペーパー、代用蒔絵筆、  
代用地塗筆、純金粉、毛棒、プラスチッ  
ク手袋、小皿、スポイト、スプーン



金継ぎで修復された器。割れ目や欠けた部分  
が、美しい模様になる。



植栽活動の様子。国産漆の生産量を増やす  
だけでなく、地元で育てたウルシと木材な  
どで作られた製品を地域に流通させ、地産  
地消サイクルのモデルケースを構築するこ  
とも目標としている。

堤浅吉漆店  
<https://www.kourin-urushi.com/>

### 古くから受け継がれる伝統技法で 廃棄物を一点ものの芸術品に再生

「金継ぎ」とは、陶器などの割れや  
欠け、ひびといった破損部分を、漆と  
金で修復する伝統技法のこと。ただ直  
すだけではなく、接合部分に入った金  
の線により唯一無二の味わいが加わる  
ため、「より愛着が深まる」と国内外  
で人気を集めている。

この金継ぎを自宅で気軽に楽しめる  
のが、堤浅吉漆店の「金継ぎコフレ」。  
同商品は天然漆や純金粉などの素材と、  
ペラ、小皿といった、金継ぎに必要な  
道具一式をセットにしたもの。プロの  
職人による解説動画も用意されており、  
初心者でもわかりやすいと好評だ。

堤浅吉漆店は、1909年から漆の精  
製加工と販売を行う京都の老舗。国産

漆の約7割を取り扱う。一方で、2016  
年からは「漆文化」を守るための活  
動「うるしのいっぽ」をスタート。ウル  
シの木の植栽をはじめ、素材としての  
漆や、漆製品の魅力を伝える施策に  
も力を注ぐ。

金継ぎコフレの開発もその一環だ。  
同商品には漆の魅力を伝えるだけで  
なく、「物を大切に使い、繋いでいく  
ことの意味や重要性を伝えたい」とい  
う思いも込められている。

「壊れたら買い直す」ではなく、修  
復して長く大切に使う。大量生産・大  
量消費の時代だからこそ、金継ぎを通  
じてサステナブルな物との付き合い方  
を見直してみたい。

# 進化する ConSiteワールド



「ConSiteがある  
日立建機がほしい」  
が理想

ConSiteの浸透で  
点検する文化が  
醸成された

鉱山現場全体の  
効率化に  
貢献したい

データを  
お客様のビジネスに  
役立てたい

パートナーと  
連携して  
ConSiteの輪をつくる

ConSiteが  
あって当たり前  
の世界をめざす

データを検証し  
より求められる  
機能を開発したい

いかにお客様のためになるかを主眼に置いて開発され、  
今なお進化を続けるサービスソリューション「ConSite」。  
「ConSite」は建設機械から取得したデータと日立建機のICT技術を用いて、  
世界中のお客様、そして社会に新たな体験価値を提供している。  
「ConSite」がもたらす現場のイノベーション、そしてめざす未来像に迫った。

文／齊藤俊明 イラスト／noa1008 写真／関根則夫

# 人・機械・社会をつなぐ ConSiteワールド

建設機械を使うお客さまの願いは、機械の安定稼働と、ライフサイクルコストの低減。  
この願いを、データを用いたサービスソリューションによって実現し、  
お客さまが生み出す価値の最大化を支援するのが ConSite である。

## お客さまの課題解決に データ活用で貢献

建設機械には、ほかの機械とは異なる特徴がある。例えば10年以上の長期間にわたり稼働を続ける機械であること。また、鉱山機械の場合は一度に70tもの地盤をはがすなど、大きな負荷がかかる作業を担うケースも多い。風雨にさらされる野外や、屋内作業で舞う粉塵、振動、寒冷地から熱帯地域まで広い温度域の現場など……。多様な環境で稼働するうえ、現場を終えると別の現場に移動し、働く場所が変われば稼働環境も劇的に変わり得る。

こうした過酷な条件下で稼働する機械であるため、状況によっては突発的なトラブルが起きることも考えられる。言うまでもなくお客さまにとっては、機械に故障が発生して稼働が停止すると現場自体が止まってしまう、経営上の大きな損失につながる。そこで、日頃から状態を見守ってトラブルを未然に防ぎ、機械の安定稼働を実現。加えて運用効率向上、適切な時期の部品交換や、点検・修理の提案などによりライフサイクルコスト低減を支援しようという考えのもと生まれたのが、ConSiteだ。

ConSiteでは、機械から得られるビッグデータとICT技術を活用し、機械の状態を監視・解析する。機械を提供する日立建機だけがその情報を活用することを意図していない。機械の安定稼働とライフサイクルコスト低減というお客さまが直面する課題の解決に向けて、必要なタイミングで、必

要なサービスや部品などをお客さまに提供するためのツールである。機械の状態監視や中古車の査定、遠隔でのリアルタイム故障診断といった多彩な機能も用意し、それらを通じてお客さまのビジネスを多方面で支援するサービスソリューションとなっている。

ツールと書いたように、ConSite自体は実は手段にすぎない。しかし、単なる手段にとどまらないのが

ConSiteの大きな特徴だ。日立建機はConSiteによって世界中の機械とお客さま、そのお客さまをサポートする代理店をつなぎ、さらにお客さまを取り巻くさまざまな関係者ともつながり、カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーといった社会課題解決への寄与をめざしている。

その背景にあるのが、ソリューションプロバイダーとしての日立建機の思いだ。日立建機は中期経営計画で「真のソリューションプロバイダーとしての成長」を掲げている。まずはデータ活用による機械の予防保全を中心とする「ソリューション1.0」に始まり、その情報を活用して製品を進化させ、代理店やサプライヤー、工場、部品倉庫等を双方向でつなぐ「ソリューション2.0」へと進み、さらにその先でゼロリードタイム、ゼロダウンタイム、ゼロウェイストレイバーの実現をめざすために、次世代のサプライチェーンを構築して付加価値を生み出す「ソリューション3.0」への挑戦という未来像を描く。そして、その実現に向けた取り組みの起点であり中核となるプログラムが、まさにConSiteなのである。

